

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690800048
法人名	特定医療法人 社団 三医会
事業所名	グループホーム庄の里
所在地	富山県砺波市頼成605
自己評価作成日	令和4年11月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和4年12月23日	評価結果市町村受理日	令和5年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者一人ひとりが、笑顔で過ごし、楽しいと思える時間を少しでも長く感られるよう環境を整え穏やかに過ごしていただけるよう努めている。また、残存機能を活かし、自分に自信を持つ事で生活していくことの活力になるよう支援している。  
現在は、コロナ禍により制限されることも多くあるが、年間を通して、その月々に合った行事を企画し、季節を感じられるレクリエーションで生活にメリハリをつけられるよう努めている。地域の方の協力を得て防災訓練をはじめ、納涼祭の開催や、地区の敬老会や公民館まつりにも参加し地域の一員としての交流も盛んに行うよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は広大で自然豊かな地域の一角に位置し、敷地内には同法人運営の医療機関やデイサービスが隣設している。利用者個々の生活リズムを尊重し、日課活動では作品作りや畑仕事に特に着目し取り組んでいる。また、利用者や職員の安全確保を第一に、災害対策に尽力している。隣設の医療機関との連携も充実しており、急変や重度化にも柔軟に対応できる。働く職員はチームワークがよく、日々様々な内容のミーティングを実施し、利用者の過ごしやすさを追求しサービス向上を心掛けている。地域とも積極的に関わり、事業所自体が地域の一員として機能できるよう日々邁進している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初からの事業所理念をもとに、各ユニットで毎年度、職員が話し合いユニット理念を考えている。目に付きやすい場所に掲示し、いつでも理念を意識し業務に取り組めるよう努めている。	法人全体とユニット毎の理念を設定し、玄関フロアやユニットなどに掲示し、いつでも確認できるよう努めている。また、職員は毎年理念に沿った自己目標を掲げ業務に臨んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で地域の行事も減少しているが、今年度も地域の自主防災訓練への参加や、公民館まつりに入居者が作った作品展示してもらい、地域との交流を行っている。	地域住民より事業所の畑の土をもらったり、プランターや花を贈呈されたりと事業所運営に協力を得ている。年1回の事業所開催の文化祭では利用者の作品を展示。地域の方も自由に観覧でき、足を運んでもらえる機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に、地域の自治会代表の方の参加をしていただき、ホームでの生活や関わり方を伝え、認知症への理解の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、書面開催の時もあるが、2か月に1度のペースで開催している。会議には入居者や家族、地域自治体の方、市の職員等が参加し、事業所で行っている活動報告や、地域での参加可能な活動事業の確認等を行っている。また、家族や入居者の方からの意見や要望などを確認し、サービスの向上を図っている。	新型コロナウイルス感染症の流行状況に合わせて、2ヶ月に1度開催している。会議では入居状況、行事報告、災害対策などについて話し合い運営に活かしている。議事録は家族に送付し内容の開示に努めるとともに、玄関フロアに設置し外部者でも読めるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に出席していただき、情報共有、相談等出来る機会を作っている。コロナ禍の為、開催中止になった時には、資料を郵送し情報開示した。市で開催されるサービス事業所連絡会に参加し、相談や助言を頂けるよう取り組んでいる。	市が主催するサービス事業所連絡会に加入し、研修や会議に参加することで市との連携を図っている。また、市や地域包括支援センターとも運営のことで連絡を取り合いながら日々の支援やサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っている委員会の中で、2か月に1回毎に身体拘束の話し合いを行っている。不適切ケアにつながるものはユニットごとに話し合いを行い全職員で検討し身体拘束をしない取り組みに努めている。また、テーマを決め年2回の勉強会を実施している。	身体拘束についての指針、マニュアルを整備し実践に取り組んでいる。入居時に利用者や家族に指針を伝え理解を求めている。日々の支援の中で起こりうる事例に対し、改善に向けミーティング等で随時検討を行っている。	身体拘束をしないケアについて、委員会での内容や勉強会などの取り組みがわかりやすく、確認しやすいように議事録等を整備されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のユニットミーティングの際に、3か月毎に行っている虐待防止対策ミーティングで話したことを報告し話し合っている。また、年2回の研修会を行うことで虐待防止に対する理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている方が、現在入居されており、社会福祉協議会や行政書士の方と関りを持ち、制度について学ぶ機会を得ることが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書に基づき説明し、理解、納得してもらっている。介護報酬改定や内容が変更される際には、文書にて説明を行い同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方の意見や要望は日常生活の会話の中で聞いたり、思いをくみ取ったりしている。家族からは、運営推進会議で家族代表者に施設の運営と改善点や要望について意見をいただいたり、面会、来所時に意見を聞いたりしている。意見や要望に対してミーティングの際に話し合い運営に反映するよう努めている。	毎月、利用者の近況や事業所の運営状況などを手紙にして家族に送付し理解を求めている。意見等の抽出には、面会時等に声をかけ情報交換する機会を設けている。利用者や家族から得た意見は入居者ファイルに書き留め、職員間で共有し話し合い改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや各ユニットミーティング、申し送り、個別面談等で職員一人ひとりの思いや意見等を聞き運営に反映させている。	年に数回、管理者や事務長が中心となり職員との個別面談を実施している。面談では目標設定、異動希望、雇用形態などについて話し合い意見把握と改善に努めている。また、面談時以外でも普段からコミュニケーションを図り情報交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面談や各ユニットミーティング、リーダーミーティング等にて職員全体の情報を共有し職員一人ひとりがやりがいを感じながら向上心を持って仕事ができるよう環境、条件、整備に努めている。また、研修費用や資格取得費の支援制度もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所で行う研修会や法人内外で行っている研修会への参加を促し、個々のスキルアップにつながるようにしている。研修に参加することで、自分の技術を再確認し見直すよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市で開催される事業所連絡会や研修会に参加し、同業者との交流する機会が作られている。その際に情報交換をして、得たことを参考にサービスの質の向上をさせていくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人や家族の思い、入居後の生活に対しての不安や要望を傾聴し、安心して入居生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際の面談時や契約時に家族の気持ち、思いに耳を傾け、不安なことや心配事なども話しやすく、相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に話を聞き、必要なサービスを見極めている。アセスメントを十分に行い、場合によっては他のサービスへの提案や、地域包括支援センターへの相談につなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な場所で生活しているという根本的なところを忘れず、互いに助け合いを行い、本人の力を十分発揮できるような支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、毎月家族宛に手紙を書き入居者の状況や情報を伝えている。入居者に異変があればすぐに家族に伝え、その対応を家族と一緒に考え決めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的には家族との外出を推奨しており、お盆の帰省や墓参り、ドライブ等関係が途切れないよう支援していた。今年度もコロナ禍の影響で外出が出来ない状況であったが、ガラス越しの面会を行い関係が途切れないよう努めている。	新型コロナウイルスの感染対策に考慮しながら外出や面会の制限を緩和し、関係継続の支援を心掛けている。また、普段より電話や手紙での家族とのやり取りを継続し、共に支えていく関係を築けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性を尊重し、楽しんだり、助け合ったりする場面を見守り、孤立することの無いように心掛けている。また、入居者同士の関係を把握し、座席の配慮に加え、会話に職員が入りトラブル回避に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、次の生活拠点でのサービスがスムーズに移行できるよう、本人やご家族の方との関係を大切に、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に、本人や家族へ生活していく上での希望や意向を担当職員が聞きとり把握に努めている。意思表示が困難な場合は、職員より日ごろの様子を聞き本人の思いをくみ取り、希望に近づけるよう支援している。	日々の支援や関わりの中で把握できた思いや意向については、入居者ファイルに書き留めチーム全体で共有できるよう努めている。センター方式のシートを活用し、より深く具体的に思いや意向を汲みとれるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族や利用中の介護サービス事業所より生活の様子を聞き、環境の変化に戸惑うことの無いよう配慮に努めている。また、家族の協力のもと、センター方式シートに記入していただき、本人の生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活習慣を把握し、好みや出来ることを見つけ提供している。また、入居者の状態については職員間で申し送り、情報共有・現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見等、話を聞いたうえで、各ユニットミーティングの際に、ケアプランの内容について話し合いをし介護計画を作成している。	モニタリングは3ヶ月毎、ケアプラン更新は6ヶ月毎に実施し、利用者の状況に合わせ検討する機会を設けている。利用者の状態変化やサービス変更時には関係者が集い担当者会議を実施し、柔軟で具体的な話し合いができるよう心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに日々の状況を項目ごとに入力し、申し送り時に職員間で情報を共有しケアの統一と、介護計画へのサービス内容の実践記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を聞き、その時の状況・状態に合ったレクリエーションや余暇時間の楽しみを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際に地域ボランティアの協力を得て慰問していただき入居者が楽しく過ごせるよう支援したり、自主防災訓練に参加し安否確認をしてもらったりしている。今年度はコロナ禍の為、介護相談員や地元中高生の訪問は見合わせている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時より利用されていたかかりつけ医や、本人や家族が希望する医療機関への受診が出来るように支援している。受診時には適切な医療が受けられるよう、日常の様子や体調管理の変化をかかりつけ医や家族に伝えやすいよう用紙に記入する等の工夫をしている。	隣設に同法人運営の医療機関があり、そこをかかりつけに希望される方がほとんどである。職員付き添いのもと定期受診の支援を行っている。また、365日24時間オンコール体制をとっており、体調悪化や急変時にも迅速に診てもらえることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の生活の中で、何か異変を感じた時には記録に残し観察を行い看護師に報告、相談し適切な対応及び指示を受けることが出来るようになってきている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族や相談員と連絡を取り合い、状況把握及び情報提供に努めている。退院後の受け入れがスムーズに移行できるように、情報交換を行う等、地域連携室相談員や医師との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応に関する指針は、入居契約時に説明している。また、重度化した際には、主治医の意見を踏まえ家族へ情報提供や医療機関への移行をスムーズに行えるよう支援している。	入居時に重度化や看取りについて指針も用いて説明し、理解も求めている。重度化が進んだ場合には医師の判断と医療連携のうえ、隣設の同法人運営の医療機関に転院し看取り期まで支援を受けることも可能。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは全職員がいつでも見ることができる場所に置いてある。また、応急手当やAEDの取り扱いの講習を、近くにある消防署で全職員が定期的に講習を受けていたが、コロナ禍により実施できていない状況である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害、地震想定で防災訓練を行い、入居者一人ひとりに応じた避難方法を検討し昼夜問わず入居者が安全に避難してもらうための方法を全職員が出来るように訓練している。また、地域の自主防災訓練にも参加し、自治会の方が事業所へ安否確認に来られる等、地域の協力も得られるよう努めている。	年2回の火災訓練のほかにグループホーム独自で2ヶ月に1度訓練を実施し、水害などにも備えている。利用者個々の身体機能に合わせ避難方法をマニュアル化し、迅速に対応できるよう努めている。備蓄も3日分を準備し災害対策に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの言葉かけは、自尊心を傷つけないよう心掛けている。また、本人・キーパーソン以外の人に情報提供はしていない。勉強会、研修会を通し、言葉遣いに気を配っている。	定期的に言葉かけや接遇の勉強会を実施し学んでいる。また、職員1人ひとりにアンケートを実施し、それぞれの日々の対応について振り返る機会を設けている。現在はスピーチロック防止に特に着目し、尊厳をもったケアを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方が自分の思いを伝えやすい関係になるように努めている。「今、何がしたいのか。どう思っているのか」を声掛けにより聞くよう心掛けている。また、自分の思いを表現できない方に対しては、表情で把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自分のペースで生活できるよう支援している。職員が業務優先ではなく、入居者に合わせた時間で支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時から整容を行ってもらい、その日に着る服や入浴時に着替える服を自分で選んでいただくようにしている。「何を着ようか？」「今日の気温は？」等の相談にはアドバイスをを行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年度もコロナ禍の影響により、入居者と職員と一緒に準備をしたり食事をしたりすることはできていないが、月に1度の季節に応じたお弁当や、行事食として全国の郷土料理を提供し、食事を楽しみなものになるよう努めている。誕生日や季節の行事イベントを行う際には、入居者の食べたいものを聞き好みの物を提供している。	定期的に利用者に嗜好についてのアンケートを実施し、それぞれに合った食事提供ができるよう努めている。誕生日には好きなものを聞き取り提供し、ケーキでお祝いしている。また、事業所の畑で収穫した野菜をメニューに取り入れ喜びを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態で提供している。毎日の食事量、水分量の記録を行い把握している。その方の好きな飲み物で水分量が不足しないよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをし、一人ひとりに声掛け、見守り、一部介助を行い確実に実施していただけるように努めている。また、緑茶うがいを実施し、カテキンによる口腔内の汚れや臭いの除去に努め、週に1度、入れ歯洗浄剤を使用し消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、本人の様子や時間により声掛けや誘導を行っている。個々に応じた下着、紙パンツ、パット等を検討しトイレで排泄できるよう支援している。	利用者個々の身体状況や排泄パターンに合わせ支援を行っている。自力でパッド交換可能な方には行ってもらい、また、トイレでの排泄が困難な場合はポータブルトイレを設置するなどのサポートを行い自立支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量を記録に残し、少なくならないようにしている。体操や歩行運動を行い、食後にはトイレ誘導し、自然に排便が出来るよう便座に座ってもらっている。食事の際、咀嚼力を高めるため自歯、義歯を観察し、具合が悪ければ家族へ連絡し、歯科受診をしてもらう等の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのレベルに合わせて見守り、介助を行い、安全面に配慮しながら、ゆっくりと入浴していただき、入浴表を活用し週2回以上入浴していただけるよう声掛けを行っている。拒否時には無理せず時間を空けて声掛けをしたり、日を改めてたりと思いに寄り添った支援に努めている。	入浴日は特に決めず、利用者の意向に合わせて回数や頻度をその都度設定している。ゆず湯や菖蒲湯なども取り入れ、季節を感じていただく工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の希望に応じ、または体調を考慮したうえで適宜、居室で静養をしていただけるようにしている。昼夜逆転傾向のある方については、夜間、ゆっくり休んでもらえるよう、昼はホールでの活動に参加を呼び掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬を薬事表で確認し、効用や副作用についての理解を深めている。服薬介助時は与薬ミスにならないよう氏名や日時などを何度も声にし、確認してから服用してもらい、与薬前後にも間違いがないかトリプルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみを見だし、その人らしく生活が出来るように支援している。コロナ禍の為、一緒に外出や外食には行けていないが、季節に合わせた行事を企画し参加してもらうことで気分転換を図ることが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年、外食や花見ドライブ等計画を立て入居者の方に楽しんでもらっているが、コロナ禍により今年度は実施できなかった。敷地内にある畑への散歩、植え付け、収穫等で外で過ごす時間を設けたり、近くの川の堤防まで足を伸ばし散歩を楽しんだりし、外へ出る時間を大切にしながら入居者の気分転換を図っている。	家族とドライブや自宅へ出かけ気分転換を図っている。また、天候に合わせて事業所周辺の散歩や、畑の手入れのため外出する機会も設けている。敷地内で利用者の皆で弁当を食べることもあり、外の空気を感じてもらうことも行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせ、紛失等のトラブルがある方は事業所で管理し、自分で持っていたい方は自分で管理し、買い物や受診代など必要に応じて使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家族と連絡を取りたい」との希望があればスタッフルームの電話を使用していただき、ご自身の携帯電話を所有されている方は自由に使用されている。また、頻繁に合うことが出来ない家族との手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに季節感を取り入れた掲示物や入居者が作った作品の展示をしている。居室には、自分の家での生活に思えるよう、自宅で使用していた使い慣れた家具やテレビ、写真などが置けるようにしてある。また、共有スペースや廊下、各居室にはエアコンが設置され、温度管理も徹底している。トイレも含め、汚れていれはすぐに掃除、消毒が出来るよう各ユニットに清掃用具や消毒用具が置かれている。	共有スペースは十分な広さがあり、歩行器や車椅子使用でもすれ違うことができ、不便なく移動できる。大きな窓からは光が差し込み、また、外の広大な景色を見ることが出来る。湿度や温度をこまめに確認し、乾燥に注意している。トイレはユニットごとに3ヶ所あり清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、一人ひとりがゆっくりくつろげる空間がもてるよう努めている。また、気の合う入居者同士と一緒に作業したり話をしたりと交流が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が見慣れた物、使用されていた物を、ご家族に依頼し、持参していただいている。安心が出来、落ち着いて過ごすことが出来る環境づくりに心掛けている。	居室はベッドと洗面所が完備で、利用者個々の生活リズムで自由に使用することができる。壁には家族の写真や手紙を貼付し、居心地よい環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、一人ひとりに合った家具の配置にし、移動や使い勝手の良い環境づくりをしたり、トイレの位置が分かりやすいようにしたり工夫をしている。		

## 2 目標達成計画

事業所名 グループホーム庄の里

作成日: 令和 5年 1月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束をしないケアについての取り組みや、話し合いの詳細が確認しやすい議事録の作成が必要である。	身体拘束をしないケアについて行っている委員会での内容が、見やすく、分かりやすい議事録を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に行っているミーティング時に話した内容を議題ごとに整理し記録にしていく。</li> <li>年2回行っている勉強会での取り組みを、確認しやすいように整備していく。</li> </ul>	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。